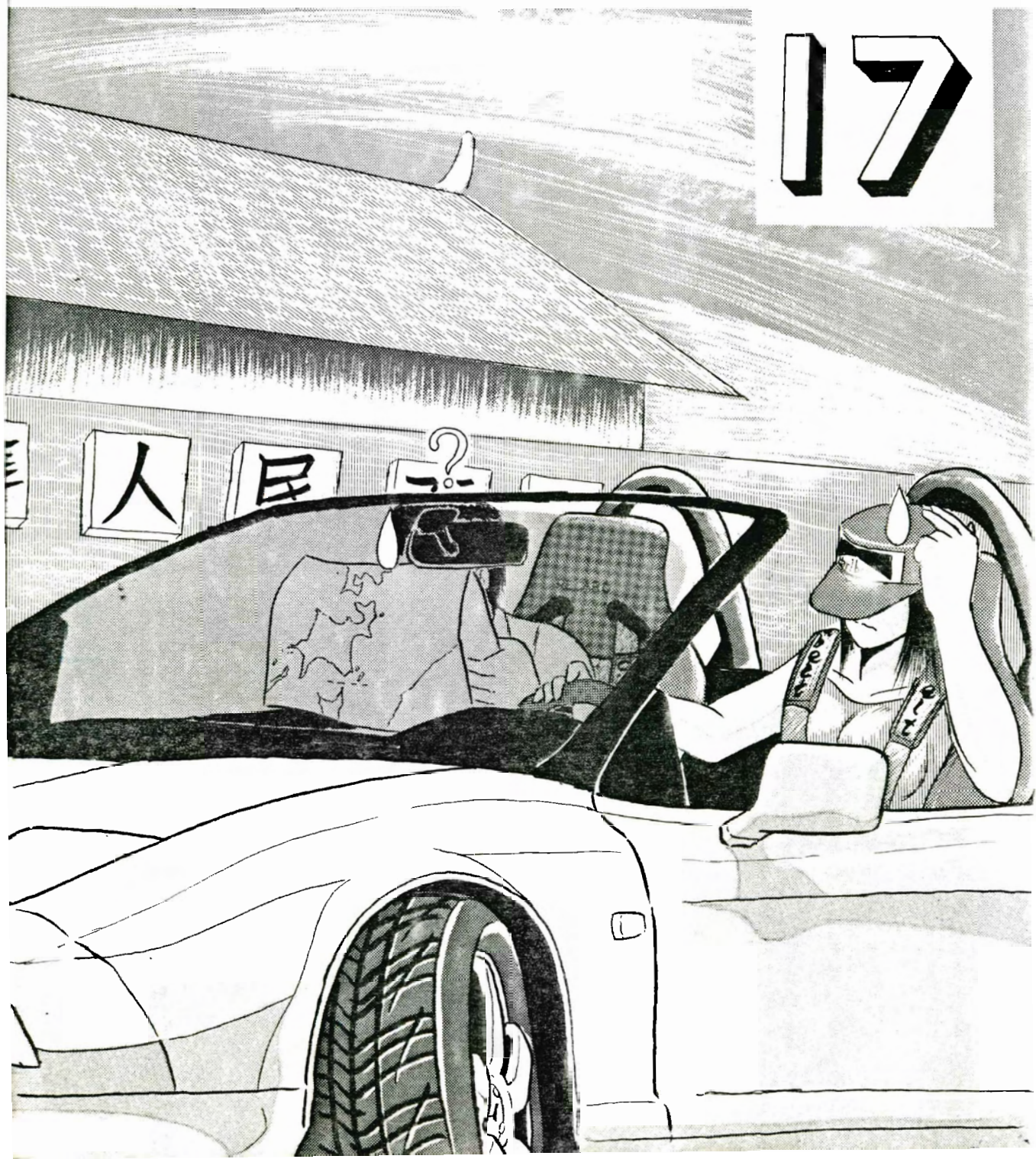


Blowers

17



㊦ 7月30日金曜日、午前7時を過ぎました。おはようございます。如月まどかです。

あまりにも日程が詰まっていたため発行が危ぶまれていたBlowers17号、大方の予想と期待を裏切りまして、残念ながら定時に発行されました。それでは目次へズーム・イン！

(♪ 「ズームイン！朝」のテーマ)

目次

3	LOOK OUT!	文・晃孝秀一 絵・孝行始
9	Mental Ranger 最終回	文・正宗征士
11	お昼だヨ！全員集合！	文・岬当麻 絵・セージ
14	FOX AWAY	文・正宗征士
15	《三等雑居室》	
19	Peace Presser Maya	文・本居小次郎 絵・牛 本居の先輩

今月の告知

- ※「FOX AWAY」「真鶴学園風雲録」両PBMのシートは8月15日必着。
- ※「FOX AWAY」には、別売りのルールブック(300円)が必要です。
- ※「真鶴学園風雲録」はルール改訂に入ったため、新規参加を締め切りました。

18号の料金表

- ①代価は300円です。(無記名の定額小為替を使用・消印に注意)
郵便切手で代用する場合は62円切手5枚です。
 - ②郵便代は250円です。
 - ③高校生以下の方には、学割制度があります。年度始めに学生証その他身分証明のコピーを送れば、その年度は定価の50円引き。顔写真など不要な部分は塗りつぶしても可。この割引を使う場合は、郵便切手での代用は不可。
 - ④団体割引もあります。これは本の発送先を、3冊単位でまとめて構わないということだけ。ただしそれで一人分の郵便代が減るので、多ければ多いほど「少し得」になる。この割引を使う場合は、郵便代計算の都合があるので、事前にごちらに相談して下さい。
- ※なお、コスト低減のために丁度しか刷らないので、PBMに参加しない人も、なるべく「原稿締切日」までに連絡のこと。代金は多少遅れてもいいので、とにかく要る冊数だけは教えて下さい。



Presented by EX-SYSTEM

LOOK OUT!

THE ACT2-II
REVENGER

<経過報告>

麻薬カルテルの元幹部のガードを依頼されたD. S. S. は、「アーバイン・スキャンダル」の潜入捜査に向かうユウを除く3人で任務を実行することになった。だが、「アーバイン・スキャンダル」に関係すると思われる議員の写真を見たショウの目は、尋常ではなかった……

2-II : THE REVENGER

1 ; (OTHER'S EYES)

惑星メダリア。ベガ系の開発拠点として、かなり初期に開発された惑星である。一応はレベルBクラスの惑星ではあるが、早い段階で資源がほとんどないことが分かり、中継基地としての役目しか果たさなくなっていた。ベガ系の玄関口としてBクラス並みの開発は行われたものの、それ以上の開発は行われず、逆に新規に開発された近隣の惑星のベッドタウンの存在に成り下がっていた。

その割には政治家達の羽振りは良く、施設の維持も行われている。不審に思う者は多かった。彼等の見解は、すべて一致していた。「メダリア議会と麻薬カルテルの癒着」である。カルテルによってもたらされる莫大な金が、議員たちの私腹を肥やし、さらには大した産業もないメダリアをベガ系一の消費国にしているのである。だが、それだけでは何の裏付けにもならない。メダリア側もそれは心

得ているのか、それ以上の物的証拠は一切つかめなかった。収支報告にも手が加えられているらしく、表面上は何等不審な点は見当たらないのである。誰の目にも明らかなのに、物的証拠がないが為に大掛かりな捜査にうって出られない。捜査局としては、今回のD. S. S. の潜入捜査が頼みの綱だった。これさえ成功すれば、確たる証拠が得られる。そうなれば、大規模な捜査にうって出られるのだ。

メダリアの首都は国名と同名のメダリア・シティである。メダリア・シティと宇宙港は専用のハイウェイで結ばれていた。このハイウェイの維持だけでもかなりの予算が必要なはずである。その金はカルテルが出し、カルテルは麻薬を宇宙港に運ぶためにこの道を使う。いつしか、この道は陰で「ドラッグ・ウェイ」と呼ばれていた。

そのハイウェイを、メダリア・シティへ向けて疾走する1台の車の姿があった。「居眠り運転の防止と速度を押さえて安全性を向上させる為に」と、まるでどこかの国のハイウェイのように、ハイウェイ本来の目的を忘れたかのような理由で曲がりくねったこの道を、その車は決して減速することなく絶妙のコーナリングで駆け抜けていく。

「ケイターハム・スーパーセヴン・レプリカ」。かつて「ロードゴーイング・フォーミュラ」の異名を取ったそのマシ

ンは、周囲のドライバーの目を集めるに十分すぎた。地を這うようなスタイル、剥き出しのサスペンション、何世紀も前のマシンのようなスタイル。この時代の観点から言えば、「異様な」マシンだった。

さらに、それを操るドライバーの姿も周囲の目を引き付けていた。とくに大型トレーラーのドライバーなどはその高い視点から、高速走行による風圧をうけて露になったその見事なボディラインに目を奪われていた。風に流れる長い黒髪と美しい肢体、そしてなぜかそれに良く似合う古めかしいスタイルのスポーツカー。

周囲の視線を集めながら、コスワースBDPエンジンのエグゾースト・ノートを従えて、彼女は一路メダリア・シティへと向かっていた。

2 ; (REPORTER: ジュン)

どうやら、状況は最悪みたい……

メダリアに到着したあたし達は、とりあえず依頼主であるウィルソン・フォーランドが保護されている、連合麻薬捜査局メダリア支部に向かったんだけど……

そこであたしたちを待ち受けていたのは、事もあろうに、ゲイル・ローランド上院議員！

一番会いたくない相手にはちあわせちゃったって訳。

なにしろ、今回ユウが潜入捜査やってる相手だし、それ以上にこの間のショウの様子ひっかかって、ここではちあうと何かあるんじゃないかって嫌な予感がしてたんだけど……

「君達かね、フォーランド氏のガードにきたと言うのは」

そう言って、ゲイル議員はあたしたち一人一人を品定めするかのようにつめた。いけすかないオヤジだわ。

暫くあたしたちを見回した後、ゲイル議員はいきなりこう言った。

「お引き取り願おう。我がメダリアの警察は優秀でね、諸君らの力を借りるまでもない」

こういう台詞には慣れてる。どこの星でも、頭の堅そうな連中の言う台詞は同じだ。そんなとこに限って、警察が能無しだったりするんだけどね。

「しかし、フォーランド氏直々の依頼でして……」

当惑したようにエミが言う。ここは毎度ながら人当たりのいいエミに任せるのが得策。

正直言うと、あたしだってこのまま帰りた。どうも嫌な予感がしてしょうがないんだ。しかも困った事に、あたしの嫌な予感は結構当たる。

だけど、一度依頼を受けた以上は、あたしらもおとなしく帰る訳にはいかない。そんな事をすれば、あたしらの評判は地に落ちる。ただでさえ、最近風当たり

が強くなってきてるんだ。この年でプータローにゃなりたくない。

そんな考えを巡らせていたあたしを、エミが肘でつついた。

「？」

何事かと思ったが、エミの表情ですぐ分かった。

「交渉決裂」

エミの表情はそう言っていた。

「ちょ、ちょっと！冗談でしょ？」

「残念ながら、冗談ではないのだよ」

そう答えたのはエミではなくゲイル議員。その顔には奇妙な笑みが浮かんでいた。

ますますいけすかないオヤジだわ。

とにかく、ここで引き下がるならば、それなりの手続きが必要になる。

本来ならば、こんな段階から引くことは許されないのだが、今回の事態は例外事項に相当する。

任務を中断、もしくは任務に入る前の帰還は基本的には契約違反、それも重大な契約違反であり、いかなあたし達とはいえそれだけは犯したことの無い事だった。ただ、規約によれば、相手に国家機関が絡み、なおかつ任務を強行する事で大きなトラブルが起こると予測される場合、依頼者との討議の上で任務を中断することができるのである。

いつものあたし達なら、少々のトラブルは覚悟の上で強行策にでるのだが、今回はそうもいかない。なにせ二重作戦の上に、その片方の当事者が相手なのである。下手なトラブルを起こせば、両方の作戦が共倒れになってしまう可能性が高い。

もっと簡単にいうならば、天秤に掛けたら、こっちよりあっちのほうが重要性が高い、と言う事。

「では、確か手続きが必要なんでしたな？代表者はどなたです？」

何でそんな事を知ってるのか、あたしはちょっと不審に感じたんだけど、それより早くショウが進み出していた。

「俺や……………」

その表情は冷たく、声は低く押し殺されていた。まるで、感情をどこかに隠そうとしているような……………

確かに、普段からショウはあたし達以外の他人に感情を悟られるのを極度に嫌うから、無表情を装ったり（確かにもともと表情には乏しいんだけど）ワザと押し殺した声を出したりするんだけど、今回のそれは全く別質のものだった。

そんなあたしの考えをよそに、しょうはゲイル議員と一緒に奥へと入っていく。

あたしにはそれが、何か危険なトラップに入っていくように見えた……………

3 ; (OTHER'S EYES)

マホガニーの重厚な扉を開け、二人の男が入ってくる。

ゲイル・ローランドは、部屋の奥にある執務机の向こうに座り、ショウにソファを勧めた。が、ショウは座ろうとはせず、ゲイルの方を睨み付けたままだった。恐らくは、その鋭い視線がサングラス越しにゲイルにも伝わっているだろう。

だが、それに気付いているのかいないのか、ゲイルは飄々とした態度を変えなかった。

「久しぶりやな……」

先に口を開いたのは、ショウだった。その口振りは決して再会を懐かしむようなものではなく、まるで仇敵にでも出会ったかのような、いますぐにでも襲いかかりそうな、そんな雰囲気を含んでいた。

しかし、ゲイルはそんなショウの雰囲気にまったく気圧されることもなく、口元には笑みさえ浮かべていた。

「そんなに怖い顔をしなくてもいいだろう？ せっかくかつての上官と部下が奇跡の再会を果たしたんだ。もっと喜んでくれると思ったがね、ガルシア曹長？」

「な、なにが奇跡の再会やぁっ?!」

その瞬間、ショウの怒りが爆発した。

「ようそがいな事じゃあじゃあどぬかせるのぉっ!! 貴様のせい、貴様一人の

為に、どいだけの仲間が死んだ思おとんのやっ!!」

表情や声だけではない。その全身に、怒りが満ち溢れていた。怒りに全身が打ち震え、筋肉が怒張している。今まで誰もみたことのないショウの姿がそこにあった。

「銀河連合宇宙海兵隊アルデバラン方面軍団所属第869独立特殊戦闘中隊第1小隊所属、ロバート・ガルシア曹長。この名で呼ばれるのも、久し振りなんじゃないか？」

「やかましいっ!!」

あまりに対照的だった。完全に頭に血が上り今にも飛びかからんとするショウと、憎たらしいほどに冷静なゲイル。

この時点で、すでに勝負は付いていた。

ここまで冷静さを欠いては、正確な判断などできるはずがない。

これがゲイルの畏だったとは、ショウには気付く術もなかった。

それどころか、ゲイルの態度はますますショウの怒りを増長させていたのである。

「3年や! 3年かかったんや! 貴様の^{おんどれ}おんどれ^{おんどれ}の行方を追うのに、貴様をここまで追い詰めるんに!!」

ショウの瞳は、獲物を狙う獣のものと化していた。誰であろうと、今のショウを止めることはできない。そう思えるような、そんな危険な瞳だった。

「では、どうしようというのだね? 私

を追い詰めて」

それでも、ゲイルは微動だにしなかった。まるで何か策でもあるかのような、そんな余裕さえ感じられた。

このときショウがそれに気付いていれば、状況は変わっただろう。だが、今のショウには不可能だった。

「きまっとるやろ……………」

ショウの身体が、ふっと沈む。ゲイルはそれを見逃さなかった。ゲイルの手が机の下に伸びる。

「今ここで、たたっ殺したるっ!!」

その瞬間、けたたましい警報音があたりに鳴り響いた。同時に、扉を破って警備員が飛び込んでくる。

「テロリストだ！私の命を狙ってきた！即刻取り押さえろ！」

瞬間、ショウの表情が凍り付く。

おんどれ
「貴様！計りよったな!!」

叫びも空しく、十人近い警備員にショウはたちまち取り押さえられてしまった。

いかなショウの力でも、これだけの人数の、しかも訓練された警備員に取り押さえられては、どうしようもなかった。

「甘かったな」

ショウの目の前に、笑みを浮かべたゲイルが立っていた。その笑みは、単なる政治家の笑みではなく、先ほどまでのショウの瞳と同じ、獣のものだった。

「じゃかあしい！どこまでネコ被る気

や！」

ゲイルは、答えなかった。

答えの代わりに、ショウの腹部に一撃の鉄拳を打ち込んでいた。その一撃は、周囲の警備員の目に、いや、ショウの目にさえ留まらぬスピードで、しかも恐ろしい程の重さを持っていた。

「?!」

「二度と私の命を狙おうなどとは思わんことだよ。いいかね？」

その瞬間、ショウの意識は闇へと落ちた。

<以下、次号>

from EX-SYSTEM (孝行)

ごめんなさいっ！今回はここまでですっ！ほんとはもっと進める筈だったのにいろいろあって……………

長い間おやすみをもらって、復帰一回目がこの程度なんだもんなぁ。原稿はあるのよ、私（孝行）の手元に。だけど、ワープロ打つ&イラスト描く（今回も扉だけだけど）のが追い付かないの。

ほんと、許してつかぁさい

次回は、もっと増ページ&増イラストできるように頑張りますから、どうか見捨てないでくださいね。

Mental Ranger

最終話

文・正宗征士

やがてミラマー達は立派な門構えの前に出た。大きな堀と白い土塀に守られ、向こう側には森林が、その頭のみを覗かせていた。頑丈な門の隙間をミラマーに従って苦もなくすり抜けたキサラは、その森が遙か奥の方まで続いていることを知った。彼女が知る限りの王宮でも見た事のないような、見事で、そして良く手入れされた森林だった。

その中を縫うように玉砂利を敷き詰めた道路が通されている。「庭園」の持つ広大さとは裏腹に、人の気配……特に敵意の類は、皆無だった。

その中を、ミラマーは奥へ奥へとずんずん進む。

「無防備に過ぎませんか？」

キサラは不安になって尋ねたが、ミラマーは無視している風だった。

「魔王の主城にしては、警戒が手薄なのは」

「これが普通なのだ」

ミラマーは至って平静だった。

「魔王はその昔、我々の味方だった」

「！」

意表をつく言葉に、キサラは息を呑んだ。まさか、そんな事がありうるのだろうか？

「あのお方は50年近く昔まで、魔界の長であると同時に、現世の長でもあったのだ……あの戦争が起こるまでは」

ミラマーが何を言い出したの

か、キサラには把握できなかった。思えば魔界に入ってからというもの、ミラマーの言うことにはついて行けないことが多い。魔王が現世を治めていた？そんな馬鹿なことが？

「魔王の持つ力は強力だった。強力すぎたのだ……そして、腹黒い魔界の高官どもは、魔王を利用しようとした」

「ミラマー様、私には何のことかまったく……」

「魔王が魔界で治める領土は、実はさほど大きいものではない」

ミラマーは更に謎めいたことを口にした。キサラは黙って聞いているよりないようだった。

「より広大な領土を持つ王が、他にもいるのだ。そして高官どもは、私腹を肥やさんがため、魔王をそそのかし、戦を始めた」

ミラマーは、ずっと遠くを見るような目付きになった。

「戦はわが魔王の完敗に終わった。そして、現世の統治権を放棄させられ、その能力にも封印がかけられた。それからの50年間は魔王の贖罪に費やされた……侵攻した国々に詫び、犠牲になった国民に詫びたのだ。一方で現世の民は、自力で世をまとめるために、魔王を悪人に仕立てあげざるを得なかった。そうするうち、やがて偽りが真実となった……」

「それでは」キサラが口をはさんだ。「ミラマー様が魔王と戦ったというのは、何のために」

「あれは本当の魔王ではない。魔王になり代わり魔界を治める

者だ」

「ならば、今回は……」

「魔王をお迎えしに行くのだ」

ミラマーは決然として答えた。

「あのお方は、立派に務めを果たされた。今は疲れがもとで病に臥せておられるはず……しかし、高官どもは、まだ飽き足らずに延命に躍起になっている」

「では、子供達は？」

「魔界の医術では……他人と身体の一部を、交換することができる……」

彼女達はやがて大きな屋敷の前に出た。きれいに緑青を吹いた銅瓦の、塀と同じ白壁の建物である。正面には菊花の御紋章が掲げられていた。

「ここまで来れば、もはや心配は無用」

ミラマーは屋敷へ上がった。

時代が変わる。 (了)

後書き

非常に乱暴ですが、MRはこれで打ち切りです。今まで根気よく読んでくれた方、本当に有難う。

私がここで書きたかったテーマというのは、実は何もありません。あえて言えば、「視点を変えよう」という事でしょうか。第一話は本来、「SHIFT」という同人誌の、一周年記念号に載せる予定でした。

「SHIFT」は高校時代に同級生がやっていたファンタジー中心のPBM同人誌で、この

「Blow」の手本にもなった本です。受験のどさくさで記念号は本誌ごと潰れてしまいましたが、その精神はBlowに引き継いでいるつもりです。もっとも、実行が伴っていないという話もあります。

話を元に戻すと、当時はD&Dを始めとするテーブルトークが普及の兆しを見せ始め、また一般にはオカルト・ブームが始まった頃でした。で「死後の世界」だの何だのがあっちこっちで話題になっていたので、「じゃ逆の発想で行ってみようか」と書き出したのが、これです。結局中途半端にしかできなかつたのは心残りですがね。

ゲームの世界ではクリエイターよりもプレイヤーの方が段違いにラクだ、というのが、話を書いていて得られた結論です。今やテーブルトークは腐るほど世間に氾濫してますすね。

それから、クイズの正解。読んでお判りの通り、「魔界」は「現世」で、「現世」が「あの世」です。予想はしてましたが、正解者はおろか回答者すらいません。

最後になりましたが、ただのりなさん、今まで本当にお世話になりました。

有難うございました。

正午を告げるチャイムが鳴って約5分後、いつも通り「鉄道唱歌」のオルゴールが流れて、一拍おいて張りのある声。(CV:森口博子)

㊦ お昼だよ！

テープ：全員、集合ーッ！

㊦ ヨーシ、今週もいってみよーかーッ！

(♪ チョットだけヨ！全員集合！／ザ・ドリフターズ)

㊦ (BGMとしてテーマが続く) オイッス！……元気がないな。もう一度、オイッス！

……シート！今放送中なんだから。

……と。はい！いつも通りお約束の部分を済ませたところで、皆さん一ヶ月ぶりのごぶさたでした。DJはお馴染み如月まどか。朝っばらからテキトーにやってるけど、まだまだ元気だよ。学校の情報は9月分。その前にとりあえず一曲目は……えー、立花陽明君からで、曲は「Psi-trailing」！

(♪ Psi-trailing／ZABADAK)

註：ここのところのリクエスト曲もおくれってば。サントラ版を作る訳じゃないけど、気分でものは大切じゃん？

㊦ ズームアップ・キャラクター！

(BGM 007のテーマ)

今日はいきなり行ってみました。今月の犠牲は5Hの菅原忠幸君、ですっ！拍手ーッ！

菅原：こんにちわ。

㊦ さて、早速だけど、菅原君はこないだの対抗戦で情報収集に精を出してたんだよね？

菅原：え、はい……

㊦ なーにクヨクヨしてんの！確かに結論は誤ったけど、小田水はちゃんと密集で来たじゃん！実際にやったのが沿海か沖か、それだけの違い！提督の読みなんか丸っきり外れてたんだから、自信もちなって。

実は、ここに菅原君へのプレゼントがあります。模型部からの公式発表なんだけどね。読んでみよう。

「対抗戦での努力をたたえ、第4艦隊司令に配転する」

男子部の第4艦隊っていうと、確か外進生では最高位じゃなかったかな。編成はエンブラ級空母1隻、タイコンデロガ級巡洋艦2隻、スプルアンス級4隻が普通。何かあるときはもっと増えるけど。よっ！大出世！

菅原：……これ、ドッキリカメラか何かですか？

㊦ (まじめな声で) 実はそうなの。……ウソをついていましたア！ドッキリカメラなんか、何に使うつての！そりゃ文化祭なんかに使えなくもないけど、それはないって。うちの委員は、そういう所で妙に頭が堅いからね。

他の人もみんな掲示板には注意してね。そろそろ人事異動があるから。

ところで、菅原君は今度の学園祭に、「郷土料理大会」を提案したんだって？

菅原：はい。

㊦っていうと、野外……まあ校庭として、いろいろみたいなのを作ってしょつつるナベを突つついてカゾクダンランとか、……

菅原：いえ、そんなとこまでは言いませんけど、地方の文化とかを広めるのにいいかな、って思って。

㊦……実は騒ぎたいだけだったり？

菅原：（動揺して）……そっ、そんなこと、ないです。

㊦ま、いいや。料理大会、期待してるよ。

それじゃ2曲目行ってみましょう。ペンネーム「闇からの使者」さんからで「悪の華」！

（♪ 悪の華／BUCK-TICK）

㊦さて、今日はスペシャル版ということで、二人目がいます。春日千明さん！

春日：こんちわー……

㊦何だかねえ、この場慣れは……

時に、いきなりだけど、何か私に言いたいことがあるそうで。

春日：（面食らって間が空く）……オープニングなんです。お願いですから、あれ、やめて下さいよー。

㊦却下。どうしてもってんなら、400字詰め原稿用紙3枚以上2枚以下で理由を書いて、直接提出のこと。でこっちからの質問だけど、今年4Aは演劇やるんだって？

春日：何かやり口がコスいような……

㊦どこが！「却下」って答えたじゃんか。で、演劇の話だけど。春日さんが主役でしょ？ 演しものは何？

春日：それはまだ秘密。

㊦「ロミオとジュリエット」とか、「ベルサイユのばら」とか、「風と共に去りぬ」とか？

春日：さあア。でも何で恋愛ものばかりなの？

㊦いやあ。誰かこう、ノーコーなキスシーンでもやってくれたら、さぞかし盛り上がるかな、ってね。

春日：ゲッ、何でバ……そんな事は絶対ッ対ッにッ、ありませんっ！あんまりいじめると、Mシ……ムググ……

㊦（大慌てで）M. C. ハマーで「ヒア・カムス・ザ・ハマー！」、それから「ゴシラ」と「愛にすべてを」、3曲続けてすべてライブ版でお送りしますッ！チィちゃん今日はありがとねッ！

（♪ ヒア・カムス・ザ・ハマー！／M. C. ハマー）

（♪ ゴシラ／ブルー・オイスター・カルト）

（♪ 愛にすべてを／ジョージ・マイケル&クイーン）

㊦はーはーはー……

さて、今月のトピックスです。学園祭のイベント予告もあるからよく聞いててね。

➤ 郷土料理大会！

ネーミングセンスのかけらもないタイトルでやんすねえ。これはさっきも言った通り。自分の田舎の自慢の料理を、文化祭の時に出店形式で出してもらいます。材料器具一式は学校が用意してくれるみたいだよ。参加にあたっては、名前だけじゃなくて、それがどんな料理かとか、作り方なんかも書いてくれると感謝百倍だね。

➤ 変な飛行機大会！

時間の無さがロコツに出てきてますねえ。もはやネーミングを考えようともしていない。これは早坂理絵さんの発案ね。全翼機を主にした編隊を組んで、会场上空を凧みたいに飛び回ろうって計画らしいけど。興味があったら手伝ってあげて。人手も要るし。

…え、何これ。タレコミネタ？ま、いいか。

➤ 坂井法子、アグレッサー脱退か？

何を考えているんでしょうか。自分から言い出したことなのにねえ。折角人材も育ってるってのに、発起人がいないんじゃないでしょうか。ウソだって事を願うね。…でも、2学期に入ってからのはるなどの交流も絶えてるみたいだし、何かあったのかね？

模型部の人事異動もお知らせしましょう。

男子部1A、東大鳳君。M48A1パットンの班へ移動。105mm砲の戦車だね。

同じく4A、影月多紀君はAH-1Jヒューイコブラの班。榊裕君の班へ。榊裕君は新しくコブラの班の班長になりました。榊君も含んで4機です。立花陽明君はスプルアンス級駆逐艦8隻の駆逐艦隊の司令です。こないだの戦略が買われたみたい。常に男子部MS司令部直轄の「独立艦隊」として行動できます。

4H、エディ・光二郎君は影月君のコブラの射手になりました。前回G組になったのは誤植だから気を付けてね。

5H、菅原絵馬君。さっきも出たけど、第4艦隊の司令官になりました。編成はエンタープライズ級空母1隻、タイコンデロガ級巡洋艦2隻、スプルアンス級4隻。艦載機は、F-18Cホーネットが16機、A-6Eイントルーダーが8機、E-2Cホークアイ2機とS-3Bパイキング3機が常駐します。艦名早いとこ決めてね。

女子部へ行って1A、満月聖良さん。模型部の司令部へ移動。

同じく2A、有明みどりさん。井村さんの副官のまま。その井村さんはあさぎり級護衛艦の艦長に変更。艦名は「しんや」にするのね？早坂理絵さんはF11Fの班へ移動。これは陸上の方ね。

4A、朝比奈美雪さんはA-7Eの班へ移動。梅田香奈さんは22型バッチ3フリゲイトの艦長で、艦名は「プリンセス・ダイアナ」。これは前と一緒だね。春日千明さんは5Aの初雁つばめさんの副官に正式に転任。

5A、伊藤早苗さんはF-16Cの班へ移動。坂井法子さんは「アグレッサー」に居残り。乗機はもちろんF-4S。こないだとは後席手が違うからね。初雁つばめさんは大艦巨砲街道をまっしぐら。女子部第7艦隊の司令と一緒に長門級戦艦の艦長を兼務。こっちの編成は、長門級戦艦2隻、鳥海級巡洋艦2隻、こんごう級護衛艦2隻、陽炎級駆逐艦4隻。こんごう級がシャレになってないね。旗艦の名前は「白幡」だっけ？

さて、じゃ今回はこれで時間です。次のコーナーをどうぞ。（参考資料：ふるきん）

F O X A W A Y

ご覧の通り、今月は落ちました。……と言うか、落としました。キャラシートが届き始めた時点で、設定時には予想だにできなかった「穴」が続出しましたので……これで強行するのはムリがあるということです。

修正・補足箇所を列記します。あと質問の答えも。

1. 引き継ぎキャラの所持金は、「SD終了時の所持金」+「1万円」です。例え合計がいくらになろうとも、これは変わりません。
2. イエールのキャラは、イザベリアの機体をレンタルすることはできません。必ず買って下さい。**逆もそうです。**
3. R511は今回制式から外れています。原産国のフランスが足下見て売ってくれないので。いかがわしい「闇ルート」なら何とかあります。
4. イエールでイザベリアの機体を購入した場合、オプションももちろん倍額で買ってもらえます。AAMについては、例外としてAIM-9 = AA-2と見なします。
5. 相手国の現用機を購入する場合も、階級の制約は同じと見なします。
6. 相手国のオプション兵器も、5割増で購入することができます。もちろん核兵器も手に入ります。（買えるんならね）
7. B-57とA-1の階級が一緒なのは、こちらの意図する「使用目的」に違いがあるからです。その辺を読むのも楽しみ方の一つかと……

今回はキャラシートをお返しします。直すところは直した上で、「乗船口」にある締切日（必着）までに送って下さい。

なお、お詫びとして、今回FAにキャラを送ってくれた方には、Blow 18を100円引きとします。

三 等 雑 居 室

事後。

- ・前回扉から
数秒後



⑤ ナーイッス！私はこういうの大好きだから、じゃんじゃん送ってちょうだい。誰が何と言おうと、私が許す。

(兵庫県・菊地研一郎)

カードゲームネタ・ギャラリー



ゲー & マー。

⑥ Neo-Geoから、またまた変な格闘ゲーム、“サムライスピリッツ”が出ました。今度は武器が中心となります。私は“千両狂四郎”という歌舞伎役者を使用していますが…CPUが強すぎる。一人目ですら敵しいんですよ。ジャン・ピエールですが、あれはデータイーストの格闘ゲーム“FIGHTER'S HISTORY”に出てくる一人で、フランス出身の体操選手です。それにこのゲームにも“リョウコ(カノウ)”が出てますよ。

(秋田県・菅原忠幸)

⑦ ……そんな事より地震大丈夫だった？私なんかは「津波到着予想報道」を見て「間もなくゴジラがやって参ります、もうおしまいです…」っていうアレを思い出したなあ。

☆30. 補給切れ

スタッフ

ACCIDENT!



使用時期: だちにも、使用後: 捨てる

自分のスタッフ 全ユニットについて1回ずつサイをふり、5~6の目を出したユニットは原稿落ちとなる。



奇跡の生還

(マンモスラッビー、発送間に合った!)



このカードを引いたエディターは、落ちた巻数を1つへらすことができる。

もっとひどいのは知り合いのNで、「渡辺美里のBIG WAVEがかかったら面白かったのに」とか言ってたよ。……菊地も酒田に田舎があるから他人事じゃないんだけどね。

“サムライ”はこないだ見た！格闘物は来るところまで来たね。ダークエッジなんか3Dにしたお陰で単にやり辛いだけって気もするし。

☞それはそうと、近頃Blowでバトルテックの事がよく話題になりますが、ゲーセンに置いてあるようなゲーム機なんでしょうか？あまり話についていけません。

(宮崎県・日高耕)

☺基本的にはそうだね。大ざっぱに表現すると、多人数同時プレイ・ロボット・バトルロイヤル。アフターバーナーの筐体みたいなのが8基並んでいて、通信ケーブルでつないであって、10分間ひたすらドンパチするだけ。後で記録がプリントアウトされるんですね。

この「ついていけない」ってのは、全国区の辛いところだよ。何かのついでで横浜の近くに来ることがあったら案内するから、遠慮なく言ってね。

コミケ。

☞もうそろそろ夏コミが目の前って感じだけど、今年は受験勉強で手一杯の私は行けそうにもない……(冬コミも)

でも、もし行く人にとってはよい情報(?)かもしれないことを一つ……

今年の夏はあまり暑くなく、すぐに終わるとか。でも気象庁の言うことはあまりあてにならない……それでも、信じたいのが人情ってやつですよえ……?

だけどやっぱりあてにならない……

(神奈川県・あずち)

☺勉強せー勉強！気象庁もあんまり悪く言っちゃあ気の毒。予報能力は世界で一二を争うんだから。北日本では津波の件で世話になったばかりだし。

36. 戦士の休息

ACCIDENT!



使用時期:ただちに / 使用后:付ける(1)

次の自分の番まで一切の出版がで
きず、イベントもできない。



「再起不能」
と誌む

日程変更 横浜で遊ぶこと

日程変更です。8月8日は堺へ行くことになりました。第二次バトルテック大会は9月5日(日)でどうでしょう。何としてもチーム戦に持ち込みたいので、近県に住んでいる人は是非来て下さい。遠来の方ももちろん歓迎です。(でもムリはしないでね)

京都へ行くのこと

例の「梅小路蒸気機関車館見物会」は、8月28日(土)です。大津波が来ようと、神宮寺が来ようと、新幹線が止まらない限り強行します。

朝11時まで京都駅烏丸中央口横「銀の竹」の周りに集合。その時点で最新のBlowを持って、私こと菊地が待ってます。夕方4時ごろ解散の予定です。

横田基地後日譚

大体が、前日に台風が接近してきた時点でケチは付いてたんだよね。んで、寝ボケた頭で家を飛び出せばヒゲは剃り忘れる、サイフは忘れるでもう大騒ぎ。

しかも合流できたのは林さんだけ。現地についてから「伊藤早苗さん、栗田榛名さんがB-52の前でお待ちです……」なんて放送をかけてもらったりもしたけど、結局スカ。

白黒写真に挑戦するつもりだったけど、天気が悪くて前に入れっ放しになってたカラーも使いきらずに帰ってきてしまいました。唯一よかった事はどういう訳かロープの罫いがなく、F-15もA-10もハリアーもRF-4Eも、触りたい放題だった程度。そういえば、F/A-18Dの「ヒレ」の下で雨宿りもしたなあ。

来てた機体は通り一遍の物ばかりだったし、今度の梅小路では絶対楽しんでやる!

✠去年の今頃に開始予告をしながら今まで遅れに遅れてたファンタジーPBM「王虎闘史」がいよいよ本格的に動き出します。今回はそのプレイ予告と専用ルールブックの案内です。

本PBMはプレイヤーキャラクター同志を使った対戦バトルゲームです。（対戦方法はバトルロイヤルがメインですが、時にチーム戦やリーグ戦が行なわれる場合があります）ゲームシステムは本PBM専用ルールに基づいてプレイヤーがキャラクターとエントリーシートを記入し、それをBlow本部へ締切日までに郵送し、それらをこちらで処理し、処理し終わったシートはプレイヤーに返送され、ゲーム全体の結果はBlowに掲載される、という形式を採ります。キャラクターの作り方、エントリーの仕方等は全て用例付きでルールブックに掲載されていますので参加御希望の方はまずルールブックの購入をお願いします。購入申し込み方法は「王虎闘史ルールブックが欲しい」と書いた紙とBlow申し込みの為替と**別に為替のみ五百円分を同封の上、編集長菊地氏のところまで郵送**して下さい。なおこれはルールブック（分冊各40P位ずつ）と発送費込みです。発送は8/28か次号Blowと同時の予定です。

※ご注意 本PBMは2ヵ月で1回分の対戦結果を発表しますので、エントリーキャラクター紹介と対戦結果発表は一ヵ月ごと交互に定期的にいたします（現在第1回の参加締切は9月9日を予定中）。これはBlowの発行が遅れると正常なプレイに支障を大いにきたしますので**毎回参加結果を偶数月28日頃にBlow別冊の形で定期出版**する予定となっておりますのでBlow発行が遅れた場合はそちらをご利用ください。

ここで読者の皆様にお詫びをいたします。本PBMは以前読者の方々にテストプレイを公募したことがありましたが、公募の後何の連絡もなく時間が過ぎ、こちらで勝手に中止を宣告してしまいました。誠に申し訳ありませんでした。これはテストプレイに関してのルールにバグが見つかった上に日程的にテストプレイの反応を聞くのに時間がかかり過ぎると判明したためです。特にテストプレイに御応募下さった皆さん、本当にごめんなさい。

次に予定では5月下旬発売予定だったルールブックがシステムの致命的なバグの発見&デバッグに思いの他時間をとられまして今まで伸びてしまいましたことを読者の皆さんにお詫びします。すみません。その代わりと言っては何ですが王虎闘史RPGのシステムを利用したテーブルトークのプレイを大幅増筆しましたのでこれで勘弁してください。なお、現在は一太郎ver. 5が手に入りましたのでルール一切を一太郎の文書領域に移植中です。夏休み中ですから印刷・製本・発送まで十分時間が取れると思います。

ファンタジーRPG PBM **王虎闘史** いよいよ登場！

専用ルールブック 分冊 2冊 発送費・税込 ￥500
8/28 頃 ついに発送開始！

To Be Next Month !



PEACE
PRESSER
MAYA

3：資料の全てに目を通し終えたころには、天井の伝統がまぶしく思えるようになっていた。時刻にして夜の8時すぎ、事務室はひっそり静まり返っている。夜勤当番を残して大方帰ってしまったのだ。ヤーニヤもいなくなっている。…冷却ファンの静かなモーター音に気がついて、聞こえる方に目をやると、彼女のスポーツニク——キリル文字があちこちに書かれている、ガラクタにしか見えない机型コンピューター——のようだった。LEDがいくつか点っている。あの新入り、電源を入れっ放しにして帰ったらしい。ディスプレイをオンしてみたが、プロンプトが出ているだけで大したことはやっていなさそうだ。…やれやれ、ロシアの田舎じゃどうだか知らないが、東京の電気代は高いのだ。

あちこち見てどうにか主電源スイッチらしきものを見つけたすと、突然電子音と共に無粋な合成音声がかぶってきた。

「そこは物理強制リセットスイッチです。私は自分で主電源の切り替えが可能です」

私は正直言って仰天した。弾かれたように飛び退る。心臓が高鳴った。何なんだ、こいつは？

「ヤーニヤ様より伝言がございます。『お先に』以上です」

…？？？？

「ロジャース！」

最初にしたのは助けを呼ぶことだった。確か、今夜の宿直はロジャースでよかったはずだ。ロス市警から出向している、仕事熱心だが性格の丸い、黒人の捜査官である。…彼は、少し経ってからようやく顔をだした。

「まだいたのか？」

「し、し、喋べった！」

「あ？」

彼が私のブースをのぞき込むと、あのガラクタは再び喋べった。

「私には会話機能があります。驚かないで下さい」

ロジャースは口笛を鳴らした。

「バスガス爆発。言えるか？」

「バスガスバクハツ…意味不明。辞

書に仮登録。解説を求めます」

「意味なんかあるか。早口言葉だ」

「ハヤクチコトバ…意味不明。辞書に仮登録。解説を求めます」

「こりゃ本物かな！」彼は舞い上がっていた。「すげえな、マヤンか？」

「そんな馬鹿な…」「私はヤーニヤ様の所有物です」

何だか、どっと疲れてきた。ロジャースはガラクタと言葉遊びに興じ始めてしまったし、私はとっとと帰ることにした。

広い地下駐車場で自分の車に潜り込んだ私は、それまで噛んでいた爪楊枝を新しいのに取り替えた。タバコもやらない訳ではないが、楊枝の方がうんと安いし、適度に堅くてアゴを刺激するから血のめぐりにもいいのだ。

エンジンを回す。ゆっくりと道路に上がる。

私の車は、トヨタが創業百何十周年かの記念にリメイクした2000GTだ。初任給が出た時に、中古屋で買ったのだが、今のところは文句のつけようがないほど良く走る。ICPOの捜査官は地方警察と違って自分の車に回転灯を積む義務は無いが、買った当初に意気かって警察無線とセットにして搭載してしまったのが今になって悔やまれる。勿体無くて捜査で潰す気にはなれないのだ。今朝の公用車みたいにオシャレにされることだってある。

汐留までは一般道で出て、そこから首都高の横羽線に乗る。東神奈川で降りて上麻生道路を北上すれば、私のアパートはすぐ近くに出る。

こう書くと結構早そうだが、実のところ横羽線が大師の辺りで必ずと言って良いほど詰まるので、一時間は優にかかる。事件発生はその、大師の渋滞を抜けた辺りで起きた。

私が後の「気配」に気付いたのは、そろそろ翻見にさしかかる頃だった。今流行の、楔形の背の低いセダンで、何か殺気立ったものを感じる。考えすぎかもしれないが、気になった。メーターは100キロを指していて、道の流れに合わせていたのだが、少し上げ

てみた。……と、ピタリとついてくる。
いよいよ怪しい。

仕事柄、「敵」は多い。広域暴力団だの、秘密結社の人間になると、ICPO関係者というだけで殺害対象になる。いつ狙われてもおかしくはない。ただ……今やられると、一般人まで巻き込む。首都高に路側帯なんて気の利いた代物はないのだ。都合良く子安の出口が来たので、降りる事にした。その方がまだチャンスがある。

ランプは二車線ある。信号は赤、横切る横断歩道の信号が点滅しているが……前には二台。間借り際にダッシュをかけて引き離すつもりだったから、なるべく行き足を殺さないようにエンジンブレーキだけで下る。左に例の車が並ぶ。銃口がチラリと見えて……青！
一速から三速へ叩き込み、出足が鈍っている先行車に横腹をこするようにして右折。メーターが80キロに達した時点で、回転灯を天井に載せる。やはり積んどいてよかった……と思いきや、銃声と同時にサイレンが鳴り止んだ。沿道からも赤い照り返しが消える。

マジかよ！

血の気が失せた。まぐれ当たりだと祈りたいが、そうだったとしても高速走行には危険が付きまとう。赤ランプが回って、サイレンが鳴っていればこそ、前の車は道を開けてくれるのだ。これじゃ、こっが避けなきゃなんないじゃないか！

鈍速の乗用車を左右にかわしながら、国道1号を横浜へ向けて突っ走る。ピークは過ぎているが時折ダンゴ状態になっている部分があって、80以上には怖くてとても上げられない。敵もそこは同様のようで、離れはしないが縮めもしない。撃ってもこない。あつという間に東神奈川の交差点である。

……勝負！

ギアをニュートラルへ落とす。ウィンカーも出さずにハンドルを右へ切り、赤の交差点に飛び込む。後輪の流れを逆ハンで受けながら上麻生道路に入り、ギアを三速に直す。

ルームミラーで後を見る。……ちゃんとついて来ていた。大したもんだ。

トップの五速まで切り上げる。150キロまでメーターの針がはねるが、ここまで来れば混む方向は逆である。意に介さずそのままを維持する。メーターは250キロまでふつてあるが、これ以上出す勇氣はちょっとない。もう少し行けば新横浜、港北警察署のまん前を通ることもできる。

また銃声……軽く姿勢を変えて避けようとしたが、右のフェンダーミラーを飛ばされた。冗談じゃない。新横浜までもつかどうかも怪しい。早いところ黙らせよう。無線で援助を請おうかとも思ったが、止めた。そっちに気を取られて、咄嗟の事態に対応できなくなったら、シャレにならない。

岸根の十字路を左折して本線を外れ、登り坂で行き足を殺し——上麻生道路は山間を縫うように走っているのだ——岸根公園の駐車場に入った。この辺まで来ると、土地勘がなければ逃げ切れるものではない。すぐに出て背の低い植え込みに身を隠す。

肩のホルスターから銃を抜くや否や、タイヤを鳴らしながら敵の車が飛び込んできた。マシンガンらしい銃口がのぞいている。向きから言って、車を壊して足を奪うつもりらしいが、そうはさせるもんか。

私は初弾を運転者の方に命中させて、次いでこっち側のタイヤ二つともに357マグを叩き込んだ。普段から銃は撃ちなれているから、この程度は造作もない。コントロールを失って、黒いセダンは私と反対側の茂みに飛び込んで止まった。

「動くな！」私は怒気も露に一喝した。「弾が外れる！」

これで相手が素直だったら殉職する警察官は少なく済む訳で、今回もご他聞に洩れず反撃を試みようとしてきた。すかさず残る3発を窓越しにいる連中に献呈する。ポケットからローダーを取り出し、弾を入れ替えながら戸口に立つ。リボルバーは信頼性がピカーなので愛用しているが、一度に6発しか装填できないのはやはりつらい。

「傷害未遂と公務執行妨害、それに道交法違反の現行犯。今から口にする言葉は全部証拠として採用さふ…」

そこまでで、私は絶句した。

奴等は互いの脳天を手前の拳銃で吹き飛ばし、自決したからだ。飛び散る鮮血、そして脳漿。…それから、エンジンルームの方で異音が出た。とっさに飛び去ると、案の定火の手が上がる。すぐに燃料タンクに火が入り、大爆発となった。

「身元証明になるものは一切ありません。指紋とDNAは採取できましたので、これから本庁で調べます」

県警の鑑識員は平然と言つてのけた。仕事柄仕方ないとは言え、私はどうも頭のなくなった死体というのには馴染めない。まして焼死体である。

もつとも、医者でもない限り、あんなものに馴れた日には、人間終わらさるうとは思ふ。

翌朝ICPOの方に、私宛のファックスで鑑識の最終結果が届いた。結局身元は割れなかつたらしい。戸籍などのデータベースにもないのでお手上げでも仕方あるまい。何んとなか予想はしていたが、素性の知れない2つの団体と関わりあいになるとは、初っぱなから悪いスタートとしか言えまい。今夜のヤマは県警の担当だが、連中は私を狙っているのだから、今後も事件解決まで、かなりの部分は私も意識せざるを得ない。

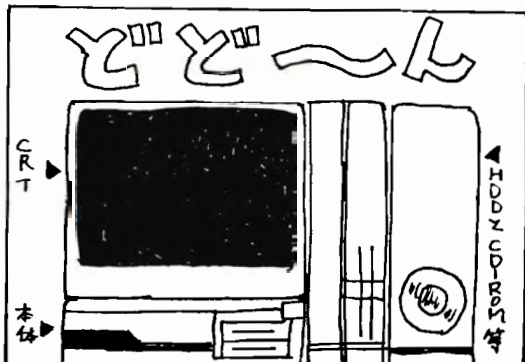
ほとんど同じ理由で、昨日もらった仕事は他のグループの担当になり、ゆうべのヤマが私たちの担当になった。「全国規模の反社会的な事件」と判断されて、ICPOの方へ回されてきたからだ。一応これで担当項目は一つに戻ったが、厄介なのは同じだった。今度のケースでは、ロクな証拠すらないのである。相手の見当は何となくついているが、予断捜査は法が禁じているところでもあるし、気乗りもしない。

この私を狙ったことを、徹底的に後悔させてやる。

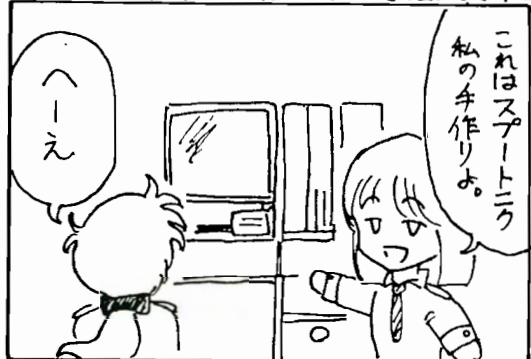
私は自分に誓った。

(続)

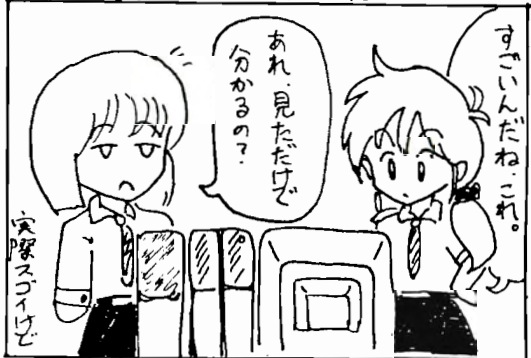
乗せたのは2号



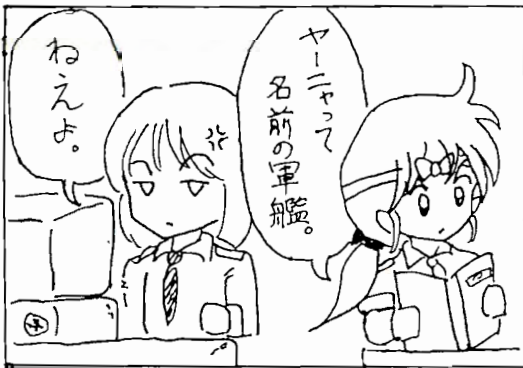
98とX68とタウンズに見えますが、そのとおりです。



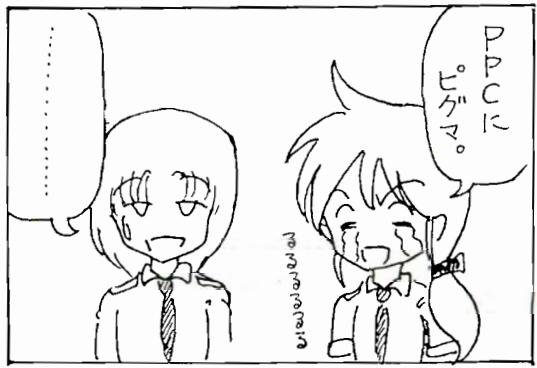
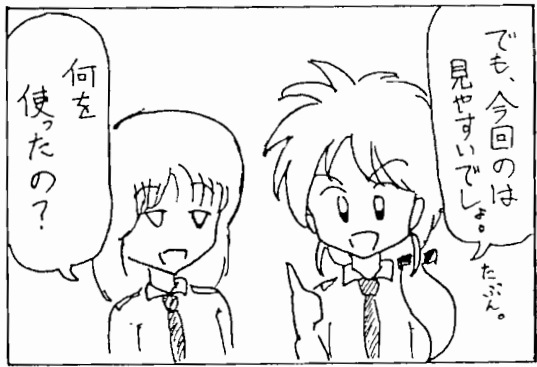
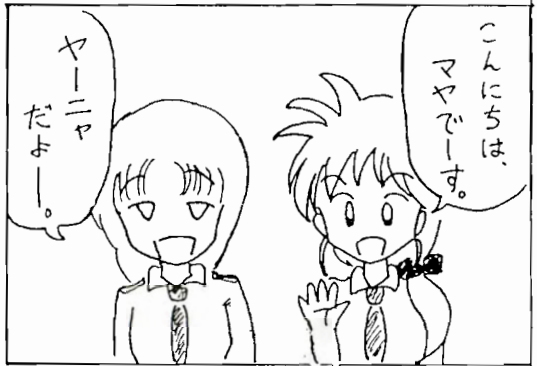
K地氏の設定がそうなるんです。



『摩耶』はあるぞ



言いわけ



航海日誌

菊：パトテの日程変更のことがあるので、急がざるをえないんです。許して下さい。

田：緋王伝プレイ中。兜が装備できないッ紛よく見たらデュラハンでした。反省。……

見：ようやく載ったか。この話の原稿を最初にしたのはいつだったかなあ？

孝：ぜーんぶ私が悪いのさあ。長期休暇も、原稿の送れも、みいんな私が悪いのさあ。

Crew

編集長：如月まどか／編集補佐：菊地研一郎

田中真人 宇垣麻美／筆者：正宗征士

見孝秀一 本居小次郎 岬当麻

絵：本居の先輩 牛 孝行始 (脱稿順)

Thanks to Y. Fukuoka.

六鹿文彦・横山ひろこ御成婚記念

Blowers第17号

第4巻第6号(通巻18号)

平成4年7月30日発行

代価300円(送料別)

編集人・発行人：菊地研一郎

発行所・印刷所：「空技廠」

本誌記事の一部または全ての無断使用を禁ず

表紙：NSX……

画・孝行始

次号「螢の光……」は

8月末日発行予定です。

原稿・投稿メ切は8/21(必着)です。

夏コミ等で多忙な時期ですが、ご協力よろしくお願ひします。

